

## 市立中学校への事前調査結果について

問 1. 運動部活動において感じている「課題」を教えてください。  
該当するものに3つまで☑をしてください。

質 問	回答数	
(1) 部活動の持続性（部活動の廃止や縮小等）	5	21.7%
(2) 地域からの指導者の確保（外部指導者や部活動指導員）	6	26.1%
(3) 地域からの指導者等と教員の連携	2	8.7%
(4) 教員の負担が多大なこと （長時間勤務の要因や指導経験のない競技の指導等）	7	30.5%
(5) その他	3	13.0%

※（5）その他【自由記載】について

学 校	内 容
野沢 中学校 【No.1】	生徒数は減少しているが、部活の数は少なくすることが非常に困難である。 人数が少ない部の存続に関して休部などの措置を行おうとすると、保護者や地域の理解が非常に難しい。 結局は存続することとなり、部活の数に対しての職員数が少ない状況が発生し、職員の負担が大きくなっている。 当然、専門性のある職員が顧問になれる割合が減り、そのことに対する保護者からの不満も少なくない。 勝ち負けにはあまりこだわらず楽しく部活に参加したい生徒と、勝利を目指す生徒やその保護者が混在する部があり、入部率が下がる。 入部率が下がると構成人数が減り、悪循環を起こしている。
中込 中学校 【No.2】	生徒数、教職員数が減少していく中で校内の部活動数が変わらず、顧問数が足りないため部活動の複数顧問体制が組めない。 副顧問が掛け持ちをして指導をせざるを得ない状況にある。 生徒の多様化によって、女子柔道、バドミントン、新体操等新たなニーズが増え、大会引率のみを担当する顧問を配置せざるを得ない状況にある。 そもそも自ら経験のない部活動の指導を、ほぼボランティアで自分の時間を削って働くというシステムに問題がある。 部活動は社会体育（塾）として学校教育から切り離すか、手当をしっかりと出して職務として教職員が担っていくかをはっきりさせたい。
望月 中学校 【No.3】	生徒数の減少や子どもの部活離れにより、年々部員の確保が困難な部活動が増え、ここ3年はどこかの部活が他校との合同チームを組んで大会に参加している。 これからますます増えてくると思われる。

問 2. 運動部活動の地域移行に関して「期待や望むこと」を教えてください。  
該当するものに3つまで☑をしてください。

質 問	回答数	
(1) 生徒が多様なスポーツに親しむ機会の充実	7	33.3%
(2) 生徒が専門性の高い指導が受けられること	4	19.1%
(3) 地域に開かれた学校づくりの推進	1	4.8%
(4) 教員の負担軽減による学校教育の質の向上や 生徒に向き合う時間が増える	7	33.3%
(5) その他	2	9.5%

※（5）その他【自由記載】について

学 校	内 容
野沢 中学校 【No.4】	前述の「勝ち負けにはあまりこだわらず楽しく部活に参加したい生徒と、より専門性が高い指導を望む生徒」の両者の願いが叶う広域で大きな組織での運動活動ができると良いと思う。 指導者は、その種目に何らかの関わりのある方が行った方が効率的であると思う。
中込 中学校 【No.5】	生徒が生涯にわたって多様なスポーツに親しむために、大会に出場し競技力向上を目指す本格的な部活動と生涯スポーツの一環として、楽しみながら親しんでいくクラブ活動的な運動クラブに棲み分けをし、学校では後者の指導を担い、前者については地域のクラブチーム（塾）として活動していくようにしたい。

問 3. 運動部活動の地域移行に関して既に取り組んでいる又は検討している事例があれば教えてください。

学 校	内 容
野沢 中学校 【No.6】	柔道に関して、けが等のことを考慮すると、より専門的な指導者が必要であると考えている。 野沢中学校区には旭日柔道場があり、連携している。 週5日間の練習全てを道場の指導者の方に指導していただき、大会の申し込みや練習試合の計画の事務手続きなどを学校の顧問が行っている。 生徒の様子を見るため、週1～2回は顧問が道場の練習に参加している。道場には他校生徒も通ってきており、今後は部活動の地域移行化につなげることも可能と思われる。
浅科 中学校 【No.7】	女子バスケットボール部、サッカー部は休日練習等に外部からコーチがきてくださっているが、労働基準法の関係で部活動指導員にはなれなかった。 来年度から、地域移行ということで、そのような方々に謝礼が出るとありがたい。

問 4. その他にご意見等あればご記入ください。

学 校	内 容
浅間 中学校 【No.8】	運動部活動の地域移行を進めていくことは、佐久市のスポーツ推進計画の4つの基本目標を達成していくことと重なると思う。 「生涯にわたり学び、互いに支え合い、輝き続ける市民」が3年間という限られた中学校生活を送る中学生のためにどのように支え合っていけるのかを検討し、一刻も早く実行していきたい。 やがて支えられた中学生が支える側になり、輝き続ける佐久市民となるよい循環をつくっていきたい。
野沢 中学校 【No.9】	地域のスポーツクラブ等が子どもを勧誘し合う流れではなく、できるだけ連携して大きな組織になることが部活動の地域移行につながっていくのではないかと考えています。
中込 中学校 【No.10】	この問題は片手間で解決できる問題ではないので、佐久市教育委員会、又は、スポーツ課にこの案件専門に関わる指導主事等を専任し、（出来れば部活動指導経験者）先進地区市町村の実態調査、佐久管内の人材探しと育成、各機関との連絡調整、予算（スポンサー）の確保、等を行っていただきたい。 軽井沢町には町教委に3名の担当者が専任されていると聞いている。 東御市は令和4年度から人材バンクが整備されてきていると聞いている。 佐久市も子ども達のニーズと学校現場の教職員の思いをくみ取りながら、できるだけ早く対応していただきたい。 取り急ぎは、現在無償で部活動に関わっていただいている地域の方に「部活動指導員」として関わっていただけるよう「部活動指導員」の枠を増やしていただきたい。
臼田 中学校 【No.11】	佐久市の場合は、7校あり、地域移行については「A中学校では～だ」「B中学校では～だ」という学校による地域差がないように、市がしっかりとイニシアチブをとって、少なくとも種目ごとには同じ条件でどこの地域の中学生でもスポーツに親しめるようにしていく必要がある。 市に事務局を置き、部活動の地域移行を進めるコーディネーターを置く必要がある。
浅科 中学校 【No.12】	生徒が望む種目が何でもできる環境があるとよいと思います。（バドミントン、卓球 等） 陸上、柔道など基本的に学校外で指導を受けている生徒は、来年度からその団体の方で、選手登録や引率して中体連の大会に参加できるようになればありがたい。 運動部だけでなく文化部についても同様。 その場合、土日に外部の方が学校をあけるのにどう対応すればよいか。
望月 中学校 【No.13】	部活動の地域移行については、佐久市内の地区単位でなく、市全体で進めてほしいと思います。（望月地区の中だけで受け入れ先を見つけたり指導者を確保することは難しいです。また、ある程度の人数がいる中で競技ができることが望ましいので、複数の地区にまたがって受け入れ先や指導できる人を確保していくことがよいのではないかと思います。）